



SUPORTERS CLUB NEWS
友の会 会報
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒 039-25

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
TEL 0176-62-5858 FAX62-5860

第三回美術館友の会

寺山修司記念館、斗南藩記念観光村、

八戸市美術館 他

研修旅行



寺山修司記念館前にて

友の会の研修旅行も四回目を数えます。今回は先日開かれた友の会の総会で会員より提案された候補地の中から、本年開館して高い評価を得ている三沢市の寺山修司記念館を早いうちに訪れさらに同じ三沢市の斗南藩記念観光村を回ってみたいとの意見が多くでました。また幸い八戸市美術館でピカソの版画を中心とした好企画展が開催されていましたので、同じ県内の文化施設として表敬訪問も兼ねて研修に向う

ことになりまし。友の会の研修旅行としては珍しく余裕のあるスケジュールが組めたので、昼食時間には懐石料理を味わうなど思い出に残る研修となりました。なお、各館のご好意により団体割引等のご配慮をいただいたため若干の剰余額が生じましたが、参加者のご承諾を得て八戸市美術館発行の数冊の図録等を購入し鷹山美術館に資料として納めることとしましたので併せてご報告いたします。



研修旅行に参加して

山本 洋一

寺山修司には高校時代に一度会ったことがある。彼の出身校に通学していたのだが、その学校の創立二十周年の記念事業としてOBである彼の講演会が開催されたのだ。生気盛りの高校生のこと、当時各方面で華々しい活動を展開した時代の寵児的な立場にあった彼に対して、素直に先輩としての話を聞く気になれなかつたことを覚えている。

後になつて彼の作品・活動にやささかながら触れてみれば、寺山こそ自己表現の裏に銜いや惑いを秘めたタイプの人物であつたのに、さらに当時多忙のなか恩師や同窓生の願ひに添えて無理をして来てくれた筈なのに(そういえば教頭が「寺山さんは謝礼も固辞されて

友の会設立当初から毎年続けられてきた研修旅行。なぜか県内の施設へは一度もお邪魔したことはありませんでした。「行くなら減多に行けない所へ...」などと、「近場はどうしても行けるから」と考えがちでもあります。今回の研修でお邪魔した県内の三施設は、いずれも七戸町から片道一時間圏内という身近な所...。青森県には、美術館などの文化施設が少ないと言われています。だからこそ、というのも変ですが、館相互、また美術愛好家同士のつながりというものが一層必要なのでは?と感ずるのです。そしてその輪をもっともつと広げていければなあ、と思っています。(学芸員より)

学校に残して下さった。」と言っていた)、惜しいと思つてみてももう四半世紀も前のことである。講演の内容もほとんど覚えていないが、訥々とした語り口だけが記憶に残っている。

今回友の会の研修旅行で、三沢市に出来た寺山修司記念館を初めて訪ねることに、三沢市という役所の施設の中で、しかも必ずしも彼のイメージにふさわしくない郊外の高台という立地条件で、あの多才で多面的な寺山の世界をどのように表現しきれのかという疑問であった。この疑問はよい意味で裏切られた。

寺山と親交のあつた、七戸町にも縁の深いデザイナー栗津潔氏のプロデュースによるこの記念館は、コンバクトな変形平屋建ての建物

のなかになかに演劇・映画・詩作・評論といった寺山の活動を、楽屋・天井桟敷・机の中といったモチーフを用いてとても印象深く展示しており、まさに専門家の仕事とはこうしたものである。大変感心させられた。同時にここまでこの記念館のプロデュースを任せきつた三沢市当局の決断も素晴らしいものがあると思われた。寺山修司の従兄弟でもある館長さんから丁寧な説明をいただいたが、今後は資料的な面ですらに充実をはかつていきたいとのこと、そのような環境が整えば花巻市の宮沢賢治記念館がそうであるように内外から数多くの研究者・ファン・学生が訪れるようになるだろうと確信し、今後も県内の文化施設としてのご協力をお願いし館を後にした。

友の会会長



第57回 国際写真サロン展

会期：4月26日～5月5日

美術館に感謝「ありがとう！」

石田清剛

平成九年四月二六日から五月五日まで全日本写真連盟主催第五十七回国際写真サロン移動展を開催していただきました。

私たち写真を趣味としているものにとつて、レベルが高く、最難関のコンテストの一つで、伝統ある国際写真サロンを鑑賞する機会には殆どありませんでした。私の記憶では、この二十一年間青森県内で開催しているのは十和田市と青森市各一回だけです。作品は写真文化の普及を目的とし、原則として無償で貸出され、つぎの会場まで作品を送る経費を負担するだけとなっております。

しかし開催するに当たって

国際写真サロン移動展は、是非とも実現したい企画展でありました。写真展の性格付けや入場料の取扱いといった問題をクリアして今回開催にこぎつけたわけですが、写真愛好家の方々から高い評価をいただき来年度以降の開催も内定し、恒例の企画展として地域に定着していくことが期待されています。

開館三年を経て鷹山美術館は常設展示室三室・専用展示室三室（ランプ・絵馬・スペイン陶器）・ワーク

ショップ一室・回廊という地方としては非常に充実した展示設備を備えるに至りました。この恵まれた環境を有効に活用すれば写真サロンだけでなく様々な企画展を誘致・運営していくことができると思います。

今までは良い企画があっても会場設備の問題がネックとなり実現できないことがあったのではないでしょうが。皆様の提案・協力でこうした望みを実現させていきたいと思えます。

は会場の確保、ポスター、チラシの作成、関係者へのダイレクトメール送付、作品の展示、期間中の会場での管理、終了後の作品撤収送付と、写真サークルが単独で取り組むには大変な労力と経費が必要です。これらがネックとなって県内ではなかなか開催できませんでした。

今年七戸町で開催できたのは、「町立鷹山宇一記念美術館」と言う施設があり、専属のスタッフの皆さんが居るからできたものと考えます。美術館あってこそ開催でした。

企画展として取り組んで下さった関係スタッフの皆様

です。本当に有り難うございました。

次年度は出来るだけ多くの人達に鑑賞していただきたいと学校関係の夏休み、お盆休みを含む七月二十五日から八月二十三日まで開催することが内定しております。私たちもこの期間中に写真展を盛り上げるための行事として、国際写真サロンの審査に携わられた写真家の先生、総本務局長のお二方を講師にお願いして「国際写真サロン入賞作品講評と審査よもやま話」と題しての講演を作品展示会場で開催できればと考え、先般青森県本部の行事参加のため来られた全日本写真連盟総本務局長にお願いし、開催について検討中です。

毎年八月には青森県・七戸町で国際写真サロン移動展が開催され、この期間中に全日本写真連盟青森県本部が核になって講演会・撮影会・交流会を開催し、写真仲間の大きなお祭りにまで発展させて行きたいと考えております。

今後とも是非継続して国際写真サロン移動展の開催を宜しくお願い申し上げます。

全日本写真連盟
青森県本部事務局長
友の会理事

県収集

美術資料展

6月10日

～22日

県収集美術展は、青森県が計画的に収集している美術品を毎年県民に公開しているもので、本年は弘前市・むつ市そして鷹山美術館が会場となり巡回展として開催されました。ここで展示される美術品は将来建設される県立美術館に収蔵される予定の青森県民共有の財産であり、展示会場には運営・管理上厳しい条件が求められます。

鷹山美術館の非常に充実した展示環境が認められ、今回の開催が可能となりました。他の市町村に先駆けて施設を整備した地域が受けることのできる先行者のメリットと言えるのではないのでしょうか。

今回は鷹山先生ほか、常々当館にご助言を下される村上善男先生や佐野ぬい先生の作品をはじめとした、前衛的な手法を駆使した作品を多数見ることができました。今後も県当局の企画により様々なジャンルの作品を鑑賞する機会があることと期待されます。

恒例の春季二科展は、我が鷹山美術館の最大の企画展として町の内外から認知されてきました。友の会としても、この展覧会の成功のためオープニングレセプションへの協力・期間中のボランティアスタッフとしての参加など美術館への奉仕活動を積極的に実行してまいります。このような地域と一体となった美術館のありかたは、主催者である社団法人二科会からもご理解をいただいているように、毎回多くの会員の先生方がオープニングセレモニーにいらしてくださいませ。遠路七戸町までおいでください。先生方を囲みお話を交わす機会に恵まれるとき、



春季二科展

5月10日～6月1日

友の会会員としての協力活動以上に得るものが多い文化的な刺激に満ちたひとときを過ごすことができるとです。今回の春季二科展には非常に女性ファンの多い二科会常務理事の織田廣喜先生においでをいただき、お話をすることができて感激した表情の女性会員が何人もいたようでした。

織田廣喜先生

一九一四 福岡市生まれ
一九九五 恩賜賞

現在

日本芸術院賞
二科会常務理事
日本芸術院会員

◆今回二科会を代表しておいでいただいた織田先生には、オープニングレセプションでご挨拶をいただきました。鷹山美術館に向けての温かいお言葉、鷹山作品について、そしてご自身の絵に対するお考えなど、嬉しく興味深いものでした。11頁でご紹介します。



- 二科会青森県支部のみなさん（上）
- オープニングレセプションにおいでいただいた二科の先生方。左より竹内正治先生、栗山淳先生、西野嘉斎先生、大隈武夫先生、吉野毅先生（左）
- ご挨拶いただいている織田廣喜先生（右）

開館三周年記念 鷹山宇一の世界展

7月26日
9月23日

常時鷹山作品を鑑賞することができる全国でも唯一のところが、鷹山宇一記念美術館です。絵画など資料の展示をとおして、鷹山宇一先生を様々な角度から見るることができます。

開館三周年目を迎えた本年。これを記念し鷹山宇一の特別展が開催されました。いつも展示されている作品に加え、県内外から、当館でも初公開の作品十五点をお借りするなど、滅多にお目見えすることのない作品も展示されました。五十一日間の会期中、二千六百四名の方々にご来館いただきました。

戦前、フォーヴィスム、シュールレアリスム、そして、油彩、木版、パステルなど様々な技法・表現方法を試行錯誤した鷹山。その後の、戦後から現在までの作品には、鷹山の一貫した姿勢をはつきりと見ることができま。描いた蝶を操り、緑や青の色彩の中に表現された、叙情的かつ幻想的な世界……

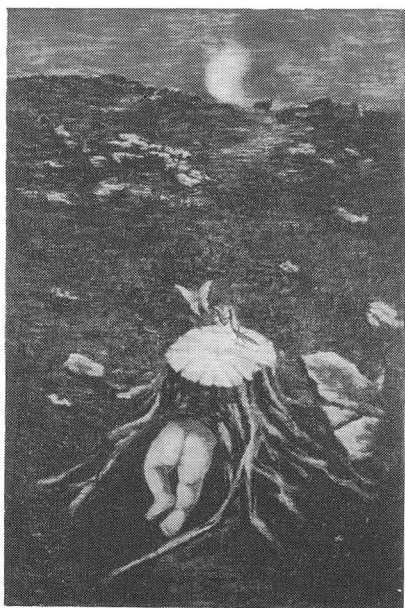
ここに一枚の絵があります。神奈川県立近代美術館所蔵「荒野の歌」。

切り株の根の隙間に潜り込もうとしている裸の幼子。この切り株の上ではカマキリと蝶が戯れ、遠くでは、これら一連の様子を一つの牛が静かにジッと眺めています。ぼんやりと輝く二十日月に照らされた荒野で緑り広げられる光景。緑を基調とした画面全体からは、何かしら懐かしいメロディが流れてきます。

今展では、鷹山の代表作の「荒野の歌」をはじめとする、戦後から現代までに描かれた油彩作品を展示することにより、「心象、その原点」という角度から鷹山宇一に迫りました。

鷹山のふるさと・七戸、そして青森。この地に記念美術館があり、美術館を訪れると、鷹山の作品とふるさとの二つに触れることができる……。画家の仕事と「ふるさと」には、相通ずる何かがあり、相通ずる……。皆さんは如何お感じになりましたでしょうか？

【解説・大池学芸員】

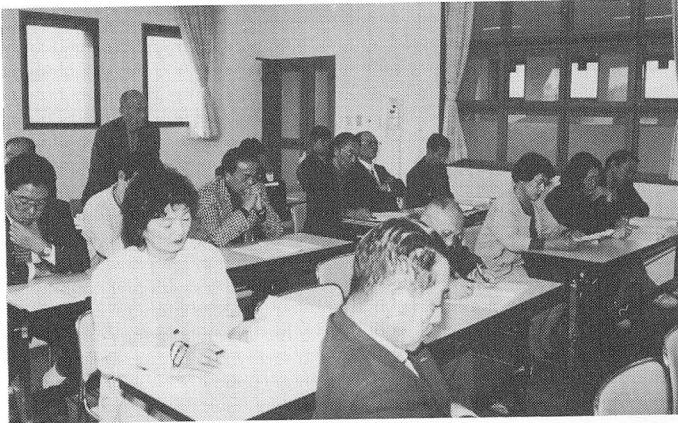


「荒野の歌」1950年
神奈川県立近代美術館所蔵

平成九年度通常総会開催

～ 絵画購入積立金20万円を承認 ～

平成9年10月4日



■議案第2号 平成8年度剰余金処分案承認の件

1、前期繰越金	281,754-
当期剰余金	480,056-
計	761,810-
2、次のとおり処分したい	
画集購入引当金(130冊分)	390,000-
絵画購入積立金	200,000-
次期繰越金	171,810-
計	761,810-

■議案第3号 平成9年度事業計画案並びに
収支予算書(案) 収支予算案承認の件

平成9年4月1日～平成10年3月31日

収入の部 単位：円

科目	内訳科目	金額	摘要
前期繰越金		171,810	
会費収入		1,360,000	法人特別 400,000 個人特別 600,000 一般会員 360,000
雑収入	預金利息	800	
収入合計		1,532,610	

支出の部

科目	内訳科目	金額	摘要
事業費		889,000	
	助成金	624,000	法人特別 192,000 個人特別 288,000 一般会員 144,000
	印刷費	135,000	会報印刷費
	研修費	100,000	講師謝礼その他
	雑費	30,000	画集他
事務費		211,000	
	会議費	20,000	総会・役員会
	通信費	150,000	会報発送 画集その他
	支払手数料	6,000	郵便局振替手数料
	慶弔費	15,000	お祝い・香典
	雑費	20,000	反省会等
支出合計		1,100,000	
予備費		432,610	繰越金 171,810 剰余金 260,800
合計		1,532,610	

平成九年度の通常総会が平成九年十月四日(土)に美術館工房で開催され、平成八年度事業報告書、収支決算書並びに剰余金処分案が承認されました。

剰余金処分案の中で、美術館で鷹山画伯の絵を購入する時の一助になればという趣旨で剰余金の中から一部を積立し、今後も余裕があれば増額して、一定の金額になったら美術館に指定(絵画購入)寄附をするという前提で、今回二十万円が承認されました。

又、九月に発行された「鷹山宇一画集」について

友の会の発足時からの法人特別会員並びに個人特別会員に一冊宛贈呈することとして、百三十冊分三十九万円を画集購入引当金として計上することも、合わせて承認されました。

会員計画は八年度実績を下廻っておりません。友の会は、側面から美術館の活動を支えていく大きな役割があります。会員が減少すれば、それだけ力がなくなり、会員一人一人がお友達や知人を誘い合って、会員を増やしていきたいと思

■議案第1号 平成8年度事業報告並びに
収支決算書承認の件

貸借対照表 平成9年3月31日現在 単位：円

資産勘定		負債・繰越金勘定	
科目	金額	科目	金額
現金	6,000	未払助成金	27,600
預金	1,415,400	前受会費	635,000
青銀・七戸	1,055,760	9年度分	626,000
郵便・七戸	359,640	10年度分	9,000
前払費用	3,010	小計	662,600
合計	1,424,410	前期繰越金	281,754
		当期剰余金	480,056
		小計	761,810
合計	1,424,410	合計	1,424,410

収支決算書 平成8年4月1日～平成9年3月31日 単位：円

支出		収入	
科目	金額	科目	金額
事業費	891,040	会費収入	1,545,000
助成金	711,600	雑収入	10,031
印刷費	179,440		
事務費	183,935		
会議費	16,100		
通信費	116,515		
図書費	2,200		
支払手数料	5,460		
消耗品費	2,060		
雑費	41,600		
小計	1,074,975	小計	1,555,031
当期剰余金	480,056		
合計	1,555,031	合計	1,555,031

鷹山宇一記念美術館 NEWS & REPORT

1997.12
vol.8

「鷹山宇一画集」 花と蝶が彩なす軌跡 鷹山宇一の世界 完成しました

美術館開館三周年を記念し、刊行することとなった「鷹山宇一画集」がついに完成。九月から一般販売を開始しました。

画集の基本方針策定から、構成案の決定、絵画等資料の所在調査、写真撮影、文字原稿の収集、これらに関する交渉・依頼など……、昨年十二月の画集編集委員会発足より、およそ八ヶ月間にわたり編集作業は続けられてきました。当館では初の、また、鷹山宇一初期から現在までの

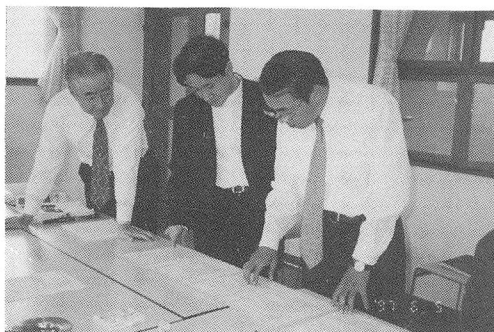
画業を集大成した初の画集完成ということで、関係者にとりまして大きな喜びとなりました。

これもひとえに、作品所有者をはじめ多くの関係各位のご協力、ご厚意がなければ成し得なかったことと、深く感謝いたしてお礼申し上げます。この場を借りてお礼申し上げます。

当館でも未公開の鷹山作品を多数収録した画集です。特に二科展初入選から終戦までの間に制作された版画・パステル画などは、現在所在不明のものも多

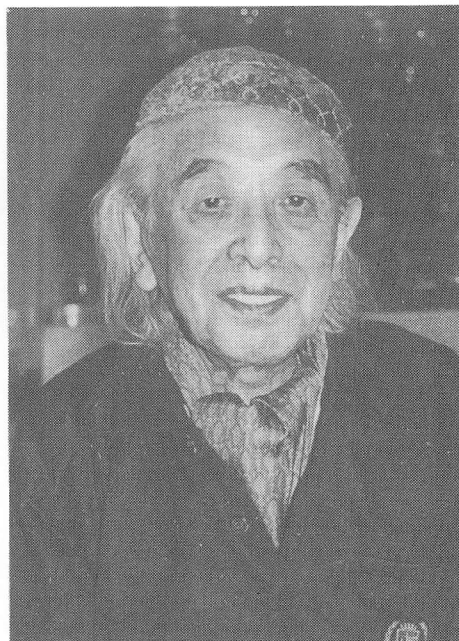


●写真/画集編集委員会での様子
(上) 絵画写真をもとに画集収録資料を選別
(右) 文字原稿のチェック



く、今となつてはこの画集でしか見ることはできません。知られざる鷹山宇一の世界を盛り込み、カラー図版百三十一点、モノクロ図版九十七点でご紹介しま

す。なお、友の会会員の皆様には会員割引価格にて画集をお求めいただけます。是非ご利用ください。



デーリー東北賞

北奥羽地域に在住、またはその出身者で、地方文化・産業・経済・学術・スポーツなど各分野で著しい功績のあった個人、または団体の業績をたたえるために、昭和四十六

第二十六回デーリー東北賞に、鷹山宇一先生はじめ、

職業教育の林みどりさん、写真活動の和井田登さんの三個人が選ばれました。来年一月二十三日には、八戸市内において贈呈式並びに祝賀会が開かれることになっております。

鷹山宇一先生

Information ごあんない

鷹山宇一記念美術館
会期の確定した
来年度の企画展

●春季二科展

4月25日(土)～

5月17日(日)

●第五十八回

国際写真サロン

7月25日(土)～

8月23日(日)

※その他にも企画展を予定しております。決定の後あらためてお知らせします。

其二

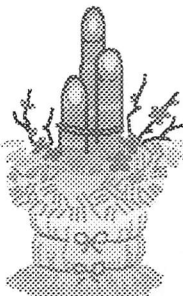
年末年始の休館のお知らせ

◆12月30日(火)～

1月2(金)まで

※但し、12月29日(月)は開館いたします。

◆新年1月3日(土)から、平常どおり開館します。今後ともよろしくお願い申し上げます。



受賞おめでとうございます。
鷹山宇一先生

「デーリー東北賞」

今年八十九才を迎えた鷹山先生は、「花と蝶をモチーフに独自の幻想世界を追求、二科会の重鎮として創作を続けている。平成六年、郷里七戸町に開館した鷹山宇一記念美術館の入館者が五万人を数え、七十年に及ぶ画業の集大成といえる画集が地元で刊行されるなど地域の芸術文化向上にも貢献した。」として、今回受賞の運びとなりました。おめでとうございます。

博物館実習生!!

当美術館では、初めて受け入れました。

博物館実習とは?

学芸員の資格は、現在在籍しているの大学で取得できます。就職課程のように資格課程の一つとして設置されていて、卒業までに専門科目を履修し、必要単位数を満たしていれば、卒業と同時に資格を取得できるという仕組みです。博物館学や、資料の整理の仕方など、講義主体の科目の中で、実際に美術館・博物館などへ行って、一週間から二週間程度の実習をする「博物館実習」という科目は、学芸員の実際の仕事、そして、美術館の裏側の世界を垣間見ることができ、唯一のもの。何を学習させるかは、すべてその実習館に任せられます。聞くと「県立など規模の大きい美術館では、学芸員が交代制で講義を受け持つなど、講義を主体とするもの、また、それらを通して実習生に展示企画を立てさせる所などもあります。たいていは、実習館の仕事をお手伝いをおして、学芸員の仕事にちょっと触れる、というのが多いのではないのでしょうか。当館の実習でも、展示替え作業、資料の調査と、その記載、資料の写真撮影など、お手伝いのことをお願いしました。

当館では初めて実習生を受け入れましたが、果たして、実習生たちにとって満足いくものになったかどうか? 受入側としての体制は、まだまだ不十分であったように感じています。しかし、不十分であったとしても、何か一つでも感じることはあったはず……このコーナーを設けました。

今、学芸員は流行っています。年々その資格履修者、取得者は増える一方で受入先は全然足りません。

今回この小さな美術館で受入れた学芸員の卵たちは、計三名。実習を終えた今、彼らは何を感しているのでしょうか? 思いのままの感想を、ご紹介します。(学芸員)

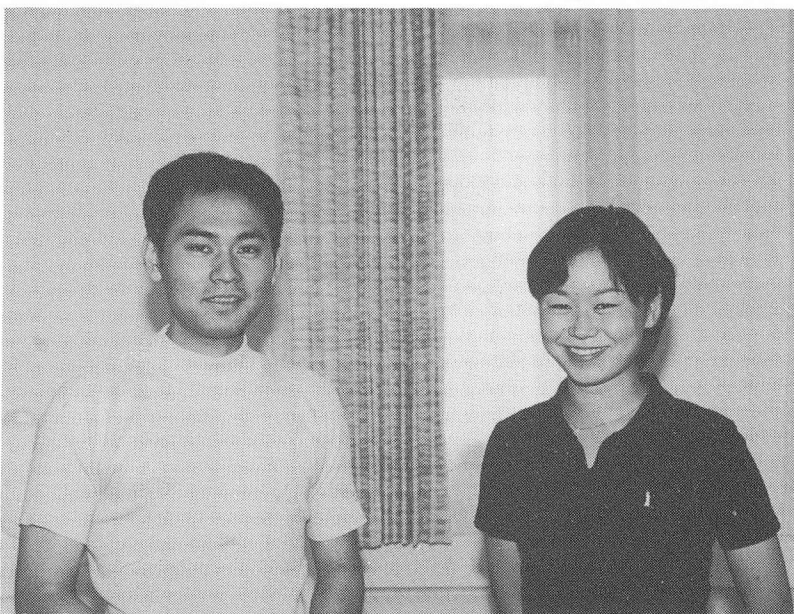
『良い美術館とは、なんだろう?』

女子美術大学芸術学科三年 富田 香織

学芸員になるのは高校の頃からの夢でした。絵を描くことは好きでしたが、それ以上に見ることが好きだったので、それなら学芸員しかないと漠然と思っていました。そして、もしできることなら、地方の美術館ではなく、有名な画家の企画展の多い、東京の美術館がいいなと考えていました。だから、今年、博物館実習があると分かったときも、迷わず東京の、しかもかなり大きな美術館を選びました。しかし、二館行くことになり、それでは地元美術館でやってみようということ、鷹山宇一記念美術館にお世話になることになりました。

そして実際、二館実習に行ってみて、一番考えたことは、「良い美術館とは一体なんだろう?」ということです。バブルの頃、「美術館建設ラッシュ」が訪れ、全国的にかなりの美術館ができました。そして皆競って有名な絵画を持ってきては、高い入館料で客を集めている、そんな時代もありました。しかし、今は

違います。美術館も、今は生き残りをかけている時代です。どんな美術館が来館者にとって良い美術館であるのか。あいにく、日本にはきちんとした美術館運営学というものが無いので、



8月19日～24日まで6日間の実習を頑張った、富田さん(右)と倉本君(左)

美術館自身も悩んでいます。私も正直、理想の美術館とはなにか、といわれると困ります。しかし、一つ言えることは、美術館は、「来た人が満足すべき場」でなければいけないという

こと。しかも、一部の、美術に造詣の深い人が満足するだけの場であってはいけないということ。来館者は絵を見にきている以上に、美術館にきているという一種のステータスを楽し

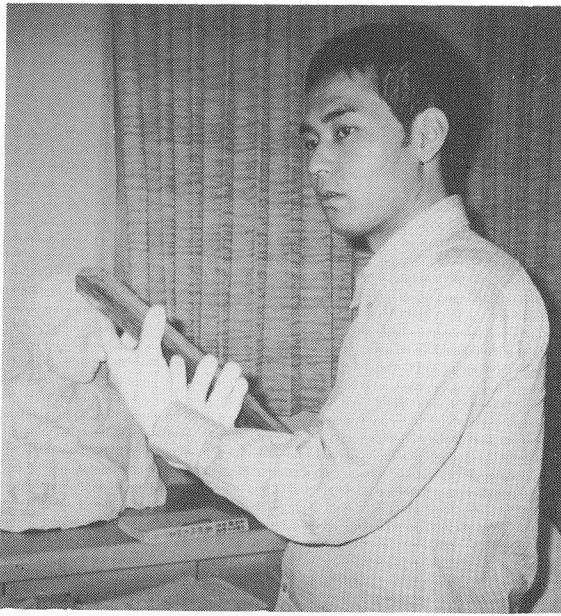
みにかけている要素が強いと思います。そう考えると、東京の美術館は、決して素晴らしいとは言えません。ただ人を集め絵を見せるだけの美術館がほとんどです。美術館は、その人が、

分るから分らないかというより、「美術館にきて良かった」と思えるか、だと思えます。それを教えてくれたのは、東京の美術館ではなく、鷹山宇一記念美術館でした。お年寄りでも楽に見て回れる広さ、休憩室と展示室が完全に独立していない。しかも、気軽に学芸員と話ができる、そんな美術館って、実はなかなか無かったりするんです。私には、『人に優しい美術館』に感じられました。

将来は、学芸員、と言いたいところですが、資格取得者の2%しかならない厳しい世界なので、正直まだ夢の段階です。でも、博物館実習での経験を自分の励みとして、頑張っていきたいと思っています。

『館務実習を終えて』
札幌学院大学社会情報学部
社会情報学科三年
倉本 大助

学芸員という言葉は、私は正直なところ大学に入るまで知りませんでした。私の通う大学は文系の総合大学で、資格課程の一つとして学芸員があります。それではなぜ私が学芸員の資格課程を履修したかと



資料調査とりの実習において/真剣な表情の倉本君
- 3人とも真剣に取り組んでいました -

いいますと、私が所属する社会情報学部では卒業と同時に取得できる資格がないために、何か資格を取ろうという軽い気持ちで履修したわけですが、それが大きな間違いであったということとを今回の鷹山宇一記念美術館での実習を通して痛感させられました。確かに実習をするにあたって、美術館や博物館に関するいろいろなことについて大学で勉強してきたわけですが、実習を通して学芸員という仕事はただ知識があっただけではいけないんだということを感じました。何が大切か自分なりに考えますと、まず、美術館、博物館のあるその土地柄、地域性を把

握するということとです。把握することによって、どのようなことを聞かれても受け答えすることができず、あらゆる展示物を研究していくうえで欠くことのできないデータにもなるからです。つまり、その土地に住む人たちよりも詳しくなければ、学芸員は勤まらないということになります。たぶん順調にいくと今年中に学芸員の資格を得ることになると思いますが、実習が終わった今、私自身もう一度、学芸員というものが何であるかということを考えて直しているところです。今回の実習で経験してきたことをこれから

ためにも無駄にしたくはないからです。話は変わりますが、実は私は美術系学芸員を履修しているわけではありませんが、ですから逆に鷹山宇一記念美術館で実習したことがとても新鮮に感じました。鷹山先生の作品は当然のことながら、私が特に感動したことは、午後四時ぐらいにランプ館へ行ってみると、天井のステンドグラスから光が射し込み、その光がランプに吸収され、ステンドグラスの色とランプの色とが混じり合い虹のようなスペクトルを出していることです。これは是非他の人にも見てもらいたいと感じました。このような環境で仕事ができたらどんなに幸せだろうと感じましたが、私自身まだまだ勉強不足ですし、将来どのような職に就きたいかも分からない状況です。もし学芸員に携わる仕事ができるのであれば、どんな状況に陥っても対応できるような学芸員になればと思っております。そのためにも残りの大学生生活をしっかりと勉強しなければと自分に言い聞かせているところです。最後に実習を通してご指導いただいた佐藤館長はじめ、職員の皆さん、そして

その他大勢の関係者の方々にお世話になったことを感謝しております。本当にありがとうございました。

『博物館実習で 気付いたこと』

弘前学院大学英文文学科四年
小笠原 道代

私は、博物館実習を自分の地元の鷹山宇一記念美術館でできたことを、つくづくうれしく思っています。というのも、この実習によって、今まで知らなかった七戸の良さを知ることができ、七戸という町にとっても誇りを持てるようになったからです。

まず、鷹山先生の絵ですが、もともと私はどんな絵に対してもじっくりと見るということがなく、また、絵を見て感動するということもなかったものですが、鷹山先生の絵も最初はよく分かりませんでした。しかし、実習で毎日絵に接し、学芸員の方にアドバイスをしていたくうちに、絵の面白さが段々分かってきました。特に、絵を自分で物語りにしてみようという方法は、自分とは全く無関係だった世界を、すごく身近なものにしてくれたと思

います。次に、七戸の絵馬ですが、その歴史の古さには驚かされ、七戸の歴史をもっと詳しく知りたいという意欲をわかせてくれました。最後に、この美術館のスタッフの皆さんですが、とても親切な方ばかりで、改めて地元の暖かさを実感で



6月23日~28日まで6日間の実習を頑張った、小笠原さん(右)
- 画集編集会議に参加、見学しているところ -

きたように思います。たぶん、私のように七戸に生まれ育っていないながら、意外と七戸の良さに気付いていない人は多いのではないのでしょうか。ですから、まず、地元の方々に自分たちの町の発見の場として、是非、美術館を利用していただきたいと思います。

ワークショップ を開催しました

When
11月29日(土)
11月30日(日)
の2日間

Where
鷹山宇一記念美術館
2F工房

Who
版画家
戸村茂樹先生

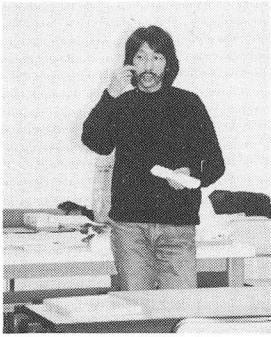
What
銅版画
様々な表現が生まれるまで
その技法と刷り

版画といえば、江戸時代に花咲いた浮世絵にも代表されるように、日本に古くからあった木版画を一番に挙げたくなります。日本人には、なじみの深いものですから当然といえば当然ですが、今日、版画というところ、銅版画、石版画、シルクスクリーンなど様々な表現方法で行われ、版画のもつ可能性はより一層膨らんでいます。

そこでこの度、ヨーロッパに十五世紀頃から存在していた「銅版画」についてのワークショップを開催しました。銅版画とはどのようなモノなのか？

実際どのようなようにしてつくられているのか？

講師・戸村茂樹先生は、今まさに活躍中の現役パリの版画家で



●講師
戸村茂樹先生
1951年生まれ
現在盛岡市在住

す。プロの仕事がどんなものか、秘密のベールに包まれたこの世界を垣間見ることでもまた、滅多にできることではありません。美術好きには、それはもう、一石二鳥のラッキーな機会でした。

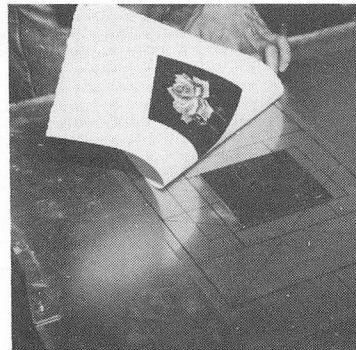
ワークショップ開催にあたり、戸村先生から次のようなメッセージをいただきましたので、ここでご紹介したいと思います。

「版画表現は音楽の世界に似ている。画家、版画家にとつて、へ版に描く、版をつくることは、作曲家が一枚の楽譜を書くことにたとえられるかもしれない。作曲家の内部にあるものがひとまじ五線譜の上に刻みこまれ、それが演奏家の手で楽譜を使って演奏されるように、初めて具体的な音楽になって私達の感覚に働きかけるように、



ワークショップ風景/プレス機の感触を試す

一枚の版もそれが刷られることによつて初めて版画としてかたちを表す。実際へ版に描く、版をつくる作業とへ版を刷る作業との両方の働きで生み出されることが、様々



うまく刷り上がったかな？
受講生の作品

な絵画表現の中で版画だけが持つ特徴だ。銅版画家は、一枚の楽譜にあたる銅版をつくり出すた

めに、表現しようとする内容に恥じて、様々な描画方法を選ぶことができる。たとえば、一本の線を描くために、エッチングの手法を使うか、ドライポイントの手法を使うかの違いによつて銅版上には全く異なった調子の線が刻まれることになる。



ワークショップ風景/刷り上がりをチェック!!

よつて生み出された作品を目にするだけで、私達は、十分に感動を味わうことができる。しかし、そのさらに作品がどのように描かれて、どのように刷られているかが見えてくれば、作者の世界に、もう一歩踏みこんだ見方ができるのではないだろうか。一枚の銅版から銅版画が刷り上がる過程を実際に見ただけで、少しでも銅版画鑑賞の手助けとなることを願っている。

たえば完成された楽譜がそれを演奏する演奏家によつて、また楽器の音色の違いによつて驚く程、多様な音楽になってゆくように版画も刷り方(演奏にあたる)の違いや、紙と絵具(楽器にあたる)の選択によつて、実に様々な表現を見せるものなのだ。画家、版画家に

初日は、主に銅版画の技法、どのようにして銅版画がつくられていくのか？について、参加者十二名が見守る中、戸村先生の実演を交えながらの講義を、そして二日目は、五名限定で実際に銅版画をつくってみる

という実技を行いました。皆の真剣な眼差しは先生の手元に集中。「さわたた感でインクがどの程度のついているかが分かる」とおっしゃった先生の手は優れたセンサーと化していて、マジックハンドといった感じですが、「優しい人がつくると優しい表現に仕上がる：」というお話を聞くにつれ、刷る人によって全く違う表現が生まれる版画は、印刷とは全く別モノであることを痛感しました。一枚刷り上がるたびに「オオーッ」「ワアー」などと感嘆の声を上げながら、皆、和気あいあい。スツカリ銅版画の世界に魅せられた二日間でした。

国内のみならず、ヨーロッパ各国で行われる、国際的な版画展でも大活躍の戸村先生。「たった一枚の版の紙をとおして、世界中の、いろいろな才能を持った人たちがと出会うことができる……この仕事は一種の“パスポート”です。」そうおっしゃった先生からは、キラキラと輝くオーラが発せられているような、そんな印象を受けました。素敵な出会いを心豊かにするものですね……。今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

館長目録

よし

館長
佐藤 亘

【四月】

●国際写真サロン展
(26日～5月5日)
入館者数 一三八八名

【五月】

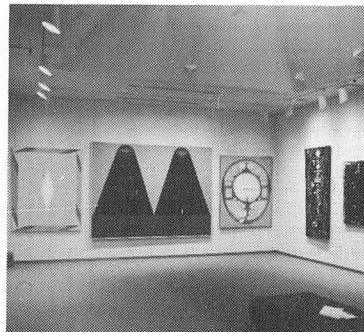
●理事会(9日) 役員改選
新財団理事長 青山浄晃氏
新副理事長 鷹山ひばり氏
常務理事(再任)浜中達男氏
新常務理事 山本洋一氏
●春季二科展
(10日～6月1日)

入館者数 三五六八名
●二科展と併催してお茶会
開催「茶道裏千家淡交会十
和田青年部主催」(18日)
●七戸町ロータリークラブ
二階工房で食事会と二科展
鑑賞(22日)

【六月】

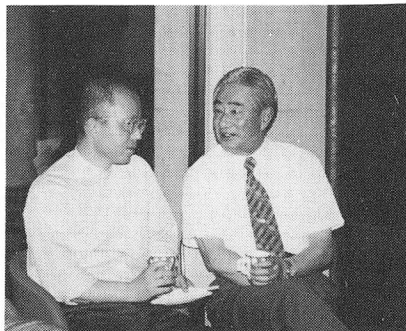
●本格的に画集編集に入る
(4日)

●県収集美術資料展
(10日～22日)
入館者数 六二八名



●午後七時から美術館ロビ
ーでスタッフ懇親会
(22日)

一般ボランティア、県教
育委員会芸術パーク職員
関係職員総勢23名



●開館からの入館者五万人
目、小林幸枝さん(盛岡市
在住)(29日)
鷹山ひばり氏から記念品
をお渡しする

●理事会(30日)
理事長不在につき鷹山ひ
ばり副理事長が代行(決算
承認)

【七月】

●京都国立近代美術館富山
秀男館長を鷹山ひばり氏と
お礼訪問(画集ご挨拶文に
対して)(16日)

●最終画集編集委員会
(20日)

●開館三周年記念特別展
「鷹山宇一の世界」
～心象、その原点～
(26日～9月23日)

【八月】

●開館記念日 無料入場者
数 225名(1日)

大人一九四名、高校生二
名、小中学生二九名

●臨時パートの岡田美代子
さん送別会(23日)

●倉本大助さん、富田香織
さん博物館実習終了
(24日)

●七戸小学校児童(六六
名)が史跡巡りで美術館
を見学(16日)

【九月】

●鷹山宇一画集届く
二、〇〇〇冊(3日)

●理事会(4日)
画集について(配布先、
送料のこと)

●友の会役員会(19日)

●二科会事務局大隈先生か
らご連絡(21日)

来期二科展四月二十五日
から五月十七日まで

【十月】

●青森市の赤田さんから画
集寄贈のお礼に五万円のご
寄附をいただきました(3日)

●友の会総会開催(4日)
会員の減少を止め増加を図
りたい

●友の会役員会(25日)
研修旅行の件

【十一月】

●東北美術館会議(横手
市)に出席(館職員成田)
(4～5日)

＊おこわり

佐藤館長は平成九年十一月
十三日をもって館長を
辞任なさいました。二年間
ありがとうございました。

ありがとうございました

佐藤 亘

この度、はからずも七戸町の教育行政を担当することになり、館長職を辞さなくてはならなくなりました。平成七年の十一月に、偉大だった前館長小原恭平先生の後を受けて、二代目館長として重責を頂いてから二度二年、微力の上に美術館経営といった未知の世界の前に、たじたじとなりながら何とか大過なく過すことが出来ました。ありがとうございます。これも、温かい気持ちでご指導ご助言くださった理事、評議員の方々、そしていつも笑顔で楽しく接して下さった職員の方々を支えられてのこと、なんと感謝申し上げます。いいやら言葉もございません。

更に、私にとっては、この二年が十年にも匹敵するくらいの内容の濃い、今まで体験したことのない感動や歓喜の渦に満ちておりました。そしてその多くは、人との出会いです。勿論私達の敬愛してやまない鷹山先生をはじめご家族の方々、織田廣喜先生や吉野毅先生はじめ二科会の方々、写真

界の大御所秋山庄太郎先生、京都国立近代美術館の富山秀男先生、評論家の瀧井三先生、北川フラムさん、二科会支部の方々と直接出会い温かい心に触れ得たのは館長としていたればこそでありました。何と幸せな二年間であつたらうと、つくづく思います。今、この美術館々々という職を去るに忍びがたく辛いことであり、又、申し訳ない思いでいっぱいではありますが、どうかお許し願いたいと思います。財団の理事としては席を頂いているようですので、これからは理事として、微力ですがお手伝い致したいと思っております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



今年の夏、パリでサモトラスのニケに会った。あまりにも有名で、ルーヴル美術館の目玉商品なので、この紙面で感想を述べるには恥ずかしいが、後輩のために私の赤ゲットぶりを紹介しよう。

まず、館内に入った時、その広さと世界中の観光客の混雑とに圧倒されて、自分の目的のものは何であつたか忘れる程、呆然としてしまった。全くおのぼりさん状態になってしまい後で思い出し笑いをしている。ともかく時間が限られている。丹念に見ることはとうてい不可能なことなので、一番見たいものから探しまわった。館内迷いながら進み、階段を昇ると踊り場にニケは置かれていた。高い台座の上であり、人々は見上げて感嘆している。こうして目の前に立ちそびえるニケの姿に、わあーとなるようであつた。

触先に置かれ、古代ギリシャ軍に勝利をもたらしたとして、勝利の女神とも云われている。激しい波風に立ち向かい勝利、すなわち希望へつきすすむこの像に強い力を感じる。見る者に

そのエネルギーが伝わるようである。ニケには顔と上肢が無い。小さな人間を笑っているのだらうか、それとも導こうとしているのか、人によってその顔は様ざまに映し出されているのだらう。

ミロのヴィーナスも、サモトラスのニケも古代ギリシャのヘレニズム時代と思われる。女性の美しさが媚



サモトラスのニケ
高さ 320cm

びず、むしろ雄大な感じがする。おおらかで力強さが現れている。

時代の背景により女性がいっしょに可愛らしいものとして隷属する立場が永すぎたので、今は見るべき女性像が少ない。

私がヘレニズム文化に魅かれるのは、単純に幼い頃からの憧れで、シルクロードや古代ギリシャへの旅を

したいと思っている。アレクサンダー大王がギリシャとアジア文明の融合をはかった東方遠征の物語を読んだ時の小さい憧れがずっとあつたと思う。

ニケと会ったとき、それをお願い出した。私は彼女に会いたかつた心だ。心に夢を持っていると、いつかかなえられる。そし

て明日へのエネルギーとなることを実感したパリであつた。

古代ギリシャの彫像を見て、新たに感動し自分の目でもっと見てみたいと素直に思った。

ところでこの美術館にはスペインの古い壺や古絵皿が飾られている。不思議な縁で当町にやってきた。そ

の古民具に触れてみると、遙かスペインへの旅へ誘われる。ピカソ、ミロ、ダリ、エル・グレコ、ベラスケス、ガウディー・・・。天才を生んだ彼の地はどのような気候風土であらう。カタール！ニヤ地方の空気を吸ってみたいなどと際限なく憧れる。ひとつの作品から巨大な夢が広がるのを実感する。このスペイン民芸資料館が併設されたのを記念して、ぜひ友の会の皆さんと「スペイン美術館巡り」ツアーをしてみたいと思う。

私にとって、あこがれの美術館はまだただたくさんあります。友の会のみならず、今度いっしょに、スペインに行ってみませんか。「アスタ・マニャーニャ」

(明日は明日のことをしよう、今日は遊ぼう)
友の会理事

* 一部会員の方々から「鷹山美術館ゆかりのスペインへ行きましょう」という声があがっています。友の会では実現の可能性を現在検討中です。



春の田代平を散策する二科会の先生方

社団法人二科会を代表して

織田廣喜先生

(春季二科展オープンングレセプションのご祝辞から)

ただいまご紹介頂きまし
た、織田廣喜でございます。
鷹山先生の美術館というこ
とで、やっとお訪ねする事
が出来まして、またご招待
を頂きまして、感謝いたし
ておるところでございます。
この美術館を拝見しまして
この環境の素晴らしさにも
う言葉がございません。そ
れで、作品が、ランプが、
絵馬のコレクションがほん
とに素晴らしい。それから、
今日は陳列されていません
が鷹山先生の作品はです
（素晴らしさを）ずっと存
じ上げております。鷹山先
生はずっと一貫して、美
しい花をですねテーマに描
かれました。花というのは
非常に平凡ですけど、花を
描かない絵描きさんは世界
中にいないと言っても過言
じゃないぐらいですけど、
花を描くことは非常に易し
くて非常に難しいと。描い
てもすぐ続かないんですね、
底をついて。ところが先生
の場合は、花一途に。もち
ろん花の後ろに少女あり、
いろいろなものを入れてあ
ります。・・・神秘性、そ
れと寂しい詩情が出ていま
す。全国の方々がこの美術
館をたいへん喜んで、今後

も大いに美術館は栄えるこ
とは間違いないと思います。
それから、このきれいな美
術館をこの土地の方がおつ
くりになった。これがまた
ほんとに素晴らしいと思
います。もう涙が出るほどに
有り難いですね。これが本
当に、本当にですね長期に
わたってもう何百年と先々
まで、この世界にひらいて
この美しい文化を子供さん
にも人々にも伝えていつて
くださいと願う次第です。
これは大変な宝だと思いま
す。

(中略) 絵の仕事は定年が
ございません。一生描いて
も未完成という事で、完成
という言葉はないわけです
から、一生この深い自然の
美しさをですね、絵という
力で後々のために残す。今
拝見した絵馬のようにです
ね、絵馬のようにいい絵を
描きたいと思いました。情
熱とか、純粹とか、感謝と
かそういうものを大事にし
てがんばっていかなきやで
きない仕事ですから。二科
の方の出品者の方に一言申
しますと、やはり、絵を描
く気構えが大事だという事
です。まず人の真似をしな
いで、そして、自分の小さ

美術館で

お呈茶

奥山雅子

去る五月十八日(日)私
ちの会(淡交会十和田青年
部)の主催で昨年同様スベ
イン館のホールで二科展に
いらしたお客様にお茶を差
し上げることができました。
たくさんの方々にお茶とお
菓子でなごみのひとときを
サービスできたことは大変
有意義な一日でした。用意
してきたお茶がほとんど底
を突くくらい悲鳴を上げ
ておりました。

又、美術館の常務理事の
浜中達男先生手作りのお茶
碗を去年のお約束のことば
どおりいただきました。本
当に有り難うございました。
早速当日使わせていただき
ました。又、これからのお
茶会でも使わせていただき
たいと思います。

一般の方の中にはお茶と
いうと堅苦しいイメージを
お持ちの方もいて、「飲み
方も解らないので、遠慮し
ます。」とか「茶道は苦
手」とか、おっしゃる方も
いらつしやいました。私ど
もが「どうぞお気軽に」と
お勧めし、一服召し上がっ



ていたでくと「思っていた
のと違って苦くない、おい
しい」とおっしゃってくだ
さり、又「もう一服」とお
替わりをなさる方もいらつ
しやいました。その日は五
月晴れのすがすがしいお天
気でスペイン館のホールの
ガラス越しに見える八甲田
連峰がとてきれいで、二
科展にいらした方々が美術
館の玄関から入りロビーを
通り第一第二第三展示室を
通りランプ館、絵馬館の回

廊を抜けてスペイン館まで
たどりつくと、ちょうど喉
が渇く頃なので益々おいし
く飲んでいただけだと思
います。
来年の二科展開催中も一
日(四月二十六日)だけ
ですが、いらした皆様方にお
茶のサービスを計画してお
ります。どうぞ、是非いら
して下さい。お待ちしております。

友の会理事

美術館二階工房では毎月第二火曜日に「火曜サロン」と称する昼食会が開かれています。

「美とは何か」、「今、なぜ美術館か」といった問答をする日があったり、「美術館でこんな事してみたい」、「新しい美術館グッズを考えよう!」、「新聞でこんな記事を見つけた」、「七戸の眠っている魅力を発掘しよう!」という提案があつたり、美術に関する形式にとらわれない情報交換の場として、美術館の一室が開放されています。

この十二月で三十三回を数えました。職業、年齢さまざまな人達の輪は、新しい発想の生まれるきっかけともなっています。

第二火曜日に集まるので「二火会(にかかい)」ご興味のある方は参加してみたいかがでしょうか。詳しくは美術館にお問い合わせ下さい

美術館では来館者の皆様へのサービスとして百円にてコーヒーのサービスをしています。受付に声をかけて

冬の静かなひととき

美術館では来館者の皆様へのサービスとして百円にてコーヒーのサービスをしています。受付に声をかけて

[ミュージアムコレクション展]

鷹山宇一の世界展 鳥谷幡山掛軸展

開催中!!

いた美術書(三百六十冊)と美術雑誌をそろえた書棚も用意してあります。自宅の書齋にいるように、コーヒーを飲みながら美術書を開いてみませんか?

会員登録の更新について

鷹山宇一記念美術館友の会は平成六年十一月に設立されましたが、平成十年四月一日より平成十年度(第四期目)の活動期間に入ります。(友の会規約は会報第一号に掲載してあります。会員の皆様には引き続き会員登録を更新の上、美術館事業への協力および相互学習に取り組んでいただきます)と思っております。会員の種別と会費および特典は下記のとおりこれまでと同様ですので、宜しくお願ひ申し上げます。

平成十年度の更新手続きは平成十年三月一日より美術館窓口にて受付いたしますが、直接ご来館出来ない方には、後日お送り致します郵便局振込用紙にてご入金いただく方法もございます。

今後とも友の会ならびに美術館に対してご理解、ご協力をお願い申し上げます。

会費規程

(規約第五条)

■一般会員

年額三千元

特典

無料入館券(三枚)送付
入館料・ミュージアムグッズ割引
研修会・講演会・会報等の連絡

■特別会員(個人)

年額一万円

特典

会員証提示により入館無料(本人と同伴者一名)
ミュージアムグッズ割引
研修会・講演会・会報等の連絡
特典
新規加入の方には画集一冊贈呈

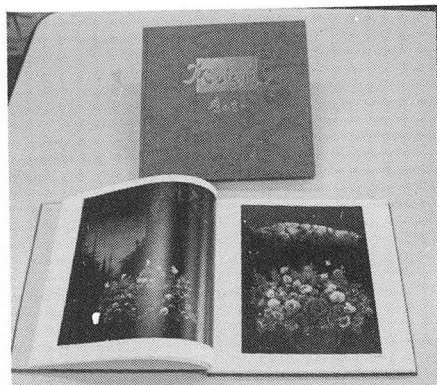
■特別会員(法人)

年額二万円

特典

会員証提示により入館無料(法人は同伴三名)
ミュージアムグッズ割引
研修会・講演会・会報等の連絡
新規加入の方には画集一冊贈呈

お問い合わせは美術館
(02-5585508)まで



編集後記

大変遅くなりました。第七号(三月二十五日発行)以来滞っておりました友の会会報、本年度の鷹山宇一記念美術館の主な出来事のご報告、会員の皆様から頂きましたご協力の紹介などこの一年の美術館の動静や友の会の活動を今号で追っていただけのように、紙面を増やして第八・九合併号という形で皆様にお届けすることとなりました。日頃お忙しい中あるいは遠方から美術館を応援頂いている皆様に会報を通じて美術館のホットな情報や話題をお届けすることが会報の大きな役割のひとつと考えております。この度はお待たせ致しましたこと心よりお詫び申し上げます。

ました春季二科展はじめ、国際写真サロン展、県収集美術資料展、開館三周年記念展と春から秋にかけて企画展が目白押しで大変活気のある美術館であつたと思えます。とくに画集完成は鷹山先生の仕事をさらに多くの皆様に紹介するために、もとても心強い味方となり、美術館応援団としてもとても嬉しい出来事でした。これで企画展、画集、ビデオなど美術館の骨格は出来上がりました。私どもは来年は美術館を大いに利用したり、できた骨格の周りに肉付けをする手伝いをする大切な年になると考えています。友の会会報を情報交換の場とし、そこから出た意見やアイデアで美術館のさらなる活性化を応援できれば...と思っております。

鷹山宇一画集が
できました
友の会会員割引
2,700円(定価3,000円)
にて販売中です!!